

瑞雪から雪災害

武漢は例年降雪があるが、2、3日で消えてしまう程度である。記憶に残るほどの大雪に見舞われたのも既に半世紀前のことだ。

今年の雪は1月11日夜から、静かに降り始めた。中国では「瑞雪は豊年の兆候」。近年暖冬が続いていたこともあり市民は雪を歓迎した。翌日は土曜日で人々は思い思い雪を楽しんだ。

ところがこの「瑞雪」は20日以上も続き、60センチの積雪と低温が市内の秩序を乱し始めた。

武漢で気温が0度を下回るとはほとんど無い。暖房使用量増大で電力はすぐに不足、発電用燃料は道路封鎖で遅延、武漢市は区域ごとの交替停電を実行し、企業は工業電力の一部を市民へ提供する等して、不足を何とか補った。

また生活水の確保も困難になった。市政府は市内38か所の消防ポンプに蛇口をつけたり、公共取水所を514か所設置し、無料で市民に飲用水の提供をした。

積雪は食糧市場にも甚大な被害を与えた。道路の封鎖で供給が絶たれ、白菜の値段などは通常の3、4倍に高騰した。農家が雪中から野菜を掘り出す様子が連日メディアで伝えられた。このような状況の中、以前に武漢の援助を受けたチベットのある都市から大量の野菜が送られてきたことは感動的なニュースだった。

交通は完全に麻痺した。全ての道が凍り、公共交通は一部運行停止だった。骨折など怪我人が大勢発生し病院も大忙し。関係機関は橋に融雪剤、道路に融雪塩を撒いた。通常年ならば1年間に使う融雪塩の総量は200トン程度なのだが、1月26日の1日の使用量は700トンにもなったそうだ。

この50年ぶりの大雪は全国的なものになり、特に湖南省の被害は酷く、生活インフラのほとんどは完全に止まっていた。湖北湖南両省は中国の東西南北の交通の要所であり、混乱は避けられなかった。武漢では市長命令により、携帯電話業者と連携し、毎日無料で天気と交通情報を使用者へ発信した。

ちょうど春節期間と重なり、南部広州では最大遅延旅客数が100万を超えたとの報道もあったが、武漢でも同様の大混乱が生じた。地元政府は帰省できなかった人々のために大晦日の宴会を催したり、交通遅延で生じた費用負担などの支援を行なった。

現在、武漢市の都市機能は完全に復活したが、今回の大雪は人々の記憶に残るだろう。多くの人的、物的被害を出したこの大雪だが、「大雪無情人有情」（大雪は無情だったが、人々の情は失われない）の言葉どおり、人々の温かさに触れる機会となったことも確かだ。



長江沿いの公園



三峡ダムへの電力線路